

新しいなにわの伝統野菜‘難波葱’の紹介

食と農の研究部 園芸グループ

■ 難波葱とは

‘難波葱’は、大阪市難波周辺で盛んに栽培されていたとされる在来ネギである。他の一般的なネギに比べて、分けつが多い、抽苔が早く蕾の数が多い、葉鞘部に赤色着色が見られる個体が多い、といった特徴が明らかとなっている。また、平成29年3月に「なにわの伝統野菜」に認証された。

史書には大阪の在来ネギが他地域に伝播した可能性が記されており、例えば形態が‘難波葱’に似る‘九条’は、『京都府園芸要覧(明治42年(1909))』に「口碑の伝ふる処によれば、紀伊郡深草村字福稲(現・京都市伏見区深草)の地に稻荷神社の建立せられたる時(711年)においてネギを栽培し始め、その原種は浪速(大阪市)より来るものという」と記されている。また、大阪城落城(大坂冬の陣1614年、夏の陣1615年)の際、関西から関東へ伝わったネギとして‘干住’が挙げられている(食材図典、地産食材編、小学館p95)。

抽苔：花茎が伸出すること。とうだち。



分けつの比較



蕾の着色



葉鞘部の赤色着色



蕾発生数の比較

■ 調査研究の目的

ストーリー性、独自性のある大阪産(もん)農産物として、注目度の高い難波葱の生産拡大・品質向上に向けた栽培技術の開発。

■ 調査研究の内容

難波葱の生産拡大に向けた取り組み

● 種子の供給と技術指導

園芸優良健全種苗配布事業により、難波葱の種子を府内に供給しています。また、大阪府農の普及課と協力して採種方法や栽培方法の指導も行っています。



採種ほ場と種子

● 収穫期拡大に向けた試験研究

旬の時期が12月～2月と限られる難波葱の安定生産を図るため収穫期の拡大に向けた栽培試験を行っています。



段播き栽培

難波葱をブランド品目に ～品質向上に向けた取り組み～

● 品種比較による難波葱の特性の把握

他のネギ品種との違いをより明確にするため、品種比較を行っています。



‘難波葱’



‘九条’群



‘干住’群

● 難波葱の特性を高めるための試験研究

難波葱の特徴とされる‘ぬめり’や甘みといった特性を高めるための栽培条件の検討等を行っています。



難波葱の‘ぬめり’

● 難波葱の類縁関係に関する研究

異なる栽培方法で育てた難波葱の形態的特徴の調査等を行い、難波葱と他のネギ品種の類縁関係について調べています。



通常栽培した難波葱



土寄せ栽培した難波葱

新しいなにわの伝統野菜‘難波葱’の紹介

○山崎基嘉・瀬上修平・鈴木真実（食と農の研究部）

1. 目的

‘難波葱’は、大阪市難波周辺で盛んに栽培されていたとされる在来ネギであり、平成 29 年 3 月に「なにわの伝統野菜」に認証された。他方、大阪の在来ネギが他地域に伝播したと伝えられており^{注1}、‘難波葱’は、利用形態の大きく異なる‘九条’や‘千住’の先祖の可能性もある。

このように、独自性・ストーリー性のある大阪産（もん）農産物として、注目度の高い‘難波葱’の生産拡大・品質向上に向けた栽培技術の開発を目指す。

^{注1} 葉ネギの代表品種の‘九条’は、『京都府園芸要覧（明治 42 年（1909））』に「口碑の伝ふる処によれば、紀伊郡深草村字福稲（現・京都市伏見区深草）の地に稲荷神社の建立せられたる時（711 年）に栽培し始めたネギの原種は浪速（大阪市）より来るものという」と記されている。他方、根深ネギ（白ネギ）の代表品種‘千住’もまた、大阪城落城（大坂冬の陣 1614 年、夏の陣 1615 年）の際、関西から関東へ伝わったネギと伝えられている（食材図典、地産食材編、小学館 p95）。

2. 方法

(1) 難波葱の生産拡大に向けた取り組み

- ①種子の安定生産技術の確立：府内生産者が、種子（生産種子）を安定的に採種できるように、採種に関する基礎試験を実施した。
- ②収穫期拡大に向けた試験研究：平成 29 年 7 月～11 月にかけて、200 穴セルトレーに段播きし、露地ほ場への定植により、播種～収穫の関連を明らかにした。

(2) 難波葱をブランド品目に ～品質向上に向けた取り組み～

- ①品種比較による難波葱の特性の把握：異なる栽培方法で育てた難波葱の形態的特徴の調査等を行った。
- ②難波葱の特性を高めるための試験研究：難波葱の特徴とされる‘ぬめり’や甘みといった特性を高めるための栽培条件を検討中である。
- ③難波葱の類縁関係に関する研究：他品種との違いの明確化のため、九条群、千住群、加賀群に分類される 7 品種を葉ネギ栽培・土寄せ栽培して生育調査を実施した。

3. 結果および考察

(1) 難波葱の生産拡大に向けた取り組み

- ①種子の安定生産技術の確立：1 m²から採種できる種子量により生産できる面積は、30～210 m²と試算された。
- ②収穫期拡大に向けた試験研究：草丈 60～70cm の収穫基準を満たすのは 7 月播種の作型であり、8 月以降ではその収穫基準を満たさなかった。7～9 月播種では翌春に抽苔したが、10～11 月播種では抽苔しなかった。

(2) 難波葱をブランド品目に ～品質向上に向けた取り組み～

- ①品種比較による難波葱の特性の把握：‘九条’系品種と比較して‘難波葱’は、分けつが多い、抽台が早く蕾の数が多い、葉鞘部に赤色着色が見られる個体が多い、等の特徴を明らかにした。本成果をもとに、‘難波葱’は、平成 29 年 3 月に「なにわの伝統野菜」に認証された。
- ②難波葱の特性を高めるための試験研究：土壌水分と‘ぬめり’量との関連を調査中である。
- ③難波葱の類縁関係に関する研究：‘難波葱’は、通常栽培では葉ネギ用品種群に分類されるが、土寄せ栽培すれば、根深ネギ用品種群に分類される形態に近くなることが示された。